

JIS

テレビジョン受信機試験方法
第3部：副搬送波方式使用の音声多重
テレビジョン受信機の電氣的測定

JIS C 6101-3 : 1998

(2007 確認)

平成 10 年 12 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。これによってJIS C 6101-1988は廃止され、この規格に置き換えられる。

JIS C 6101-3 : 1998には、次に示す附属書がある。

附属書(規定) 変調パラメータ

部編成規格 この規格の部編成規格は、次による。

JIS C 6101群 テレビジョン受信機試験方法

JIS C 6101-1 第1部：一般的事項—高周波テレビジョン信号及び映像周波数における電氣的測定

JIS C 6101-2 第2部：音声チャンネル—モノラルチャンネルの電氣的測定と一般的方法

JIS C 6101-3 第3部：副搬送波方式使用の音声多重テレビジョン受信機の電氣的測定

主務大臣：通商産業大臣 制定：平成 10.12.20

官報公示：平成 10.12.21

原案作成協力者：社団法人日本電子機械工業会

審議部会：日本工業標準調査会 電子部会(部会長 神谷 武志)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部情報電気規格課(☎ 100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1)にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目次

	ページ
序文	1
第1章：全般	
第1節：はじめに	
1. 適用範囲	1
2. 目的	1
第2節：用語の一般的解説	
3. 定義	1
3.1 主チャンネル	1
3.2 左(右)チャンネル	1
3.3 ステレオ和チャンネル	1
3.4 ステレオ差チャンネル	1
3.5 副チャンネル	1
3.6 SPA (Second Audio Programme) 副チャンネル	1
3.7 二重音声モード	2
3.8 ステレオモード	2
3.9 ステレオ及びSAPモード	2
3.10 モード識別	2
3.11 コンパンダ	2
第3節：測定上の一般的注意	
4. 一般的状態	2
5. 基準周波数及び基準変調率	2
6. 標準出力電力及び電圧	2
7. 音質調節の設定	2
8. ステレオバランス調節の設定	2
9. 圧縮器の設定	3
10. 受信機同調	3
11. 高周波信号	3
12. 重み付と非重み付音声雑音と妨害測定	3
13. カラーノイズ	3
14. 標準試験状態	3
第4節：音声出力での水平走査周波数妨害の抑圧	
15. はじめに	4
16. 定義	4
17. 試験方法	4
18. 結果の表示	4

第2章：電氣的応答測定	
第5節：音声周波数応答特性	
19. 定義	4
20. 試験方法	4
21. 結果の表示	4
第6節：音質調節の音声周波数応答特性	
22. 定義	4
23. 試験方法	4
24. 結果の表示	5
第3章：音声周波数非直線性ひずみ	
第7節：単一信号に存在するひずみ，高調波ひずみ	
25. 定義	5
26. 試験方法	5
26.1 出力電力の作用としてのひずみ測定	5
26.2 変調率に対するひずみ測定	5
27. 結果の表示	5
第8節：相互変調	
28. 全般	5
第4章：音声チャンネル分離度	
第9節：漏話度	
29. 定義	5
30. 試験方法	6
30.1 正弦波方法	6
30.2 カラーノイズ方法	6
31. 結果の表示	7
第10節：ステレオ分離度	
32. 定義	7
33. 試験方法	7
34. 結果の表示	8
第5章：機器内発生妨害	
第11節：飽和SN比及びSバズ比	
35. 定義	8
36. 試験方法	8
36.1 飽和SN比	8
36.2 Sバズ比	9
37. 結果の表示	9
第12節：Sバズビート比	
38. 定義	9
39. 試験方法	9
40. 結果の表示	9

第6章：感度

第13節：SN比

41. 定義	9
42. 試験方法	10
43. 結果の表示	10

第14節：雑音制限感度

44. 定義	10
45. 試験方法	10
46. 結果の表示	10

第15節：モード識別感度

47. 定義	10
48. 試験方法	10
49. 結果の表示	10

附属書(規定) 変調パラメータ	11
-----------------	----

解説	12
----	----

白 紙

テレビジョン受信機試験方法 C6101-3:1998
第3部：副搬送波方式使用の音声多重
テレビジョン受信機の電氣的測定

Recommended methods of measurement on receivers for
television broadcast transmissions—
Part 3: Electrical measurements on multichannel sound
television receivers using subcarrier systems

序文 この規格は、1988年に発行されたIEC 60107-3, Recommended methods of measurement on receivers for television broadcast transmissions—Part 3: Electrical measurements on multichannel sound television receivers using subcarrier systemsを翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格である。ただし、日本のテレビジョン放送方式に関係ない項目については省略した。

第1章：全般

第1節：はじめに

1. **適用範囲** この規格で規定する電氣的特性の試験方法は、特に副搬送波を使う音声多重方式の受信用に設計された放送用テレビジョン受信機に適用する。

2. **目的** この規格の目的は、規格の適用範囲内で、受信機のより重要な電氣的特性を測定するために試験方法を標準化することである。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

IEC 60107-3:1988, Recommended methods of measurement on receivers for television broadcast transmissions—Part 3: Electrical measurements on multichannel sound television receivers using subcarrier systems

第2節：用語の一般的解説

3. **定義** この規格に用いる用語の定義は、次による。

3.1 **主チャンネル (Main channel)** 音声主搬送波を直接FM変調して送る音声信号チャンネル。

備考 このチャンネルは、モノラル方式の音声チャンネルと互換性がある。

3.2 **左(右)チャンネル [Left (right) channel]** 左(右)チャンネル音声信号をステレオ送信する音声チャンネル。

3.3 **ステレオ和チャンネル (Stereo sum channel)** 左音声信号(L)と右音声信号(R)の和信号を送るチャンネル。

3.4 **ステレオ差チャンネル (Stereo subchannel)** 副搬送波上の左音声信号と右音声信号の差信号(L-R)を送るチャンネル。その周波数は水平走査周波数の2倍である。副搬送波の変調は、FM変調される。

3.5 **副チャンネル (The second channel)** FM副搬送波で送る追加の音声チャンネル。この副搬送波は、ステレオ差チャンネルと副音声に使われる。

3.6 **SAP (Second Audio Programme) 副チャンネル (SAP subchannel)** BTSC方式固有のため内容省略。